（1）　明治20年創刊　第38311号（第３種郵便物認可）　THE JOMO SHINBUN　2001年（平成13年）12月8日（土曜日）　（日刊）

# 県民向け公募債発行

## 県政参加の意識高める

県　規模10億円　第1回は病院事業債

県は県民の県政参画意識を高め、県政への協力を得る新たな施策として「県民参加型ミニ公募債」の発行を決めた。「愛県債（通称）」と名付け、来年三月にその第一回債を病院事業債として出す。発行規模は約十億円となる見込み。小寺弘之知事が七日の県議会一般質問で、厚境敬治氏（自民）に答え、明らかにした。地方債の市場公募は、これまで、全国規模の債券市場で行われており、地方市町村に限定した形での発行は全国でも初めて。

県は、県民の県政参画意識を高め、県政への協力を得る新たな施策として「県民参加型ミニ公募債」の発行を決めた。「愛県債（通称）」と名付け、来年三月にその第一回債を病院事業債として出す。発行規模は約十億円となる見込み。小寺弘之知事が七日の県議会一般質問で、厚境敬治氏（自民）に答え、明らかにした。地方債の市場公募は、これまで、全国規模の債券市場で行われており、地方市町村に限定した形での発行は全国でも初めて。総務省も成果に注目している。

市場公募債は東京都や大阪府、政令指定都市など二十九団体が、債券市場で発行している。引受先は機関投資家が中心で、シンジケート団に個人投資家向けの商品を後で組む証券会社が入っている場合、一部が個人向けにも売られる。県は、横浜市や札幌市が発行する際、市民に購入を呼びかけてきたケースはあるが、発行段階で「県民参加型」と銘打ち、個人向け商品にするのはこれまで例がない。

「愛県債」を発行するのは病院事業債。「日本一の県立病院づくり」を打ち出す県立病院で、県立病院の施設や医療機器整備費用に充て、病院事業債は一九九八年度に十二億百万円、二〇〇〇年度に六億四千三百万円発行されており、〇〇年度末の発行残高は百四十五億三千九百万円となっている。

発行条件で、利率は年〇・五％程度を予定。最終的に、国債の新発債（十二月）の利率を参考にし、それに上回る利率を付ける。償還期限は五年の場合、最低購入単位は国債と同様に五万円とし、券面の種類は五万円、十万円、百万円、五百万円、一千万円の五種類とする方向で調整している。利払いは年二回の両期一括償還。群馬銀行の本支店で取り扱う。

県では五万円、十万円の券面を中心に、できるだけ多くの県民や本県出身者などから小口の資金を集める。小寺知事は答弁で「金利など国債と同じ低利下で（眠っている）タンス預金を買ってもらえれば」と訴えた。

解説　県債発行はこれまですべて縁故債で、全体の約四分の三は百億円規模の群馬銀行が引き受けてきた。経営が窮しくなった地方銀行では地方債（県債）の引き受けを渋るケースも出ており、本県の場合は今後も群銀の引き受けが問題はないが、また、県債発行残が膨大に増え、公債費比率が高い状況にある。予算額対比で高い。

小寺知事がかねがね「県民参加の県政の実現」を打ち出し、職員に施策の拡充等を求めるなかで、県民意見提出制度を充実させることや、県民向け公募債を発行することなどを盛り込んだ「新政策」を作成してきた。今回の県民向け公募債は、「新政策」の一環。「新政策」は、「県民参画意識を高めたい」との県構想を具体化する施策の一環。地方の二十九団体が全国規模の市場公募債を発行してはいるが、その場合には百億円規模の発行額と継続性が求められる。本県も発行を検討してきたが、発行規模と継続性が十分対応できる状況から見送ってきた。地方債発行所管する総務省も、来年度の地方債計画の策定する過程で、都道府県規模の地方市場での発行を認める方向で検討を始めたことが追い風となり、今回実現にこぎつけた。

県債は、これまで十年債で利率は年・4％、五年債は初めて。予算額は約一・5％。債務残高を考えるほぼ同水準だが、多くの県民を公募とすることなどで発行コストは増える。しかし、県では県民参画を通じた県政への理解づけ、県民意識醸成の効果を期待している。

今回の県民向け公募債は、来年三月に発行する初回の動向を見ながら、「新年度以降も病院事業債などを目的を絞った形で発行する」（政治部　吉田　典之）

## 「健全度」全国でも上位

## 敬宮愛子さま

### 東宮御所で「命名の儀」　雅子さま　きょう退院

皇太子ご夫妻長女

皇太子ご夫妻に一日誕生した長女の名前が「愛子（あいこ）」、幼少時の呼び名である称号が「敬宮（としのみや）」と日日決まった。東京・元赤坂の東宮御所で同日午前行われた「命名の儀」の後、宮内庁が発表した。身の回りの品に付けるお印（しるし）は「ゴヨウツツジ」。雅子さまご夫妻は、慈愛の意味を込めて愛子さまは、慈愛が胸深くことから八日昼に退院する。七日夜、ご自宅で、鎌田口東京教育大名誉教授ら三人の学者が事前に「人を愛するのは、他人を尊ぶ人を愛して、人を敬うものは、他人も尊に」と敬称を付けて、「敬」の字は、人信敬之（人信敬之）からの出典。教授ら三人の学者が事前に人信敬之（人信敬之）からの出典。

宮内庁によると、「愛」は、人信愛之（人信愛之）、「敬」は、人信敬之（人信敬之）